

すべての伊奈学生に。

**I-inajin** 1期生OB 原 雅之氏

そこには必ず何かが残る

**F-inajin** あの頃からの帰り道

蕎麦きり さいとう

**Special** いなほ祭20周年記念企画

いなほ祭で逢いましょう

2005  
Vol.20



# 伊奈学園同窓会

昨年9月、活動を再スタートさせました。

それから1年。装いを新たに、同窓会報が生まれ変わりました。

「inajin」。

今に生きる伊奈学OB、OGを紹介します。

編集方針は、読者の皆さんに、生きる勇気と人生の指針を、

そしてほんの少しの自慢話を提供すること。

同じ学舎で青春を讃えあったもの同士

豊かな人生の工―ルを交換し、喜怒哀楽をともにしませんか。

伊奈学園同窓会長  
金子桂一



## CONTENTS

### 2005 Vol.20

2 同窓会会長 金子 桂一 あいさつ

4 **I-inajin** 1期生OB 原 雅之氏  
そこには必ず何かが残る



P4~

8 **F-inajin** あの頃からの帰り道  
蕎麦きり さいとう



P8~

10 **Special** いなほ祭20周年記念企画  
いなほ祭で逢いましょう

14 **Info** 同窓会より

総会開催のお知らせ  
同窓会HPができました  
クラス会支援案について

決算報告  
登録情報変更について  
学校自己評価と学校評議員について



P10~

16 編集後記

#### STAFF

Chief Editor 金子桂一 3rd(同窓会会長)  
Art Director 越智浩一 11th  
Editor 荻原正行 12th  
Producer 加藤桂悟 12th(編集委員長)

発行 伊奈学園同窓会  
編集 会報誌編集委員会  
印刷 株式会社 帆風

お問い合わせ Mail [ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp](mailto:ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp)  
Web <http://www.inagakuen.on.arena.ne.jp/>

「そこには必ず何かが残る」



I-inajin

原 雅之氏 (1期 4A 美術)

取材(文:加藤桂悟12th/撮影:佐藤雄亮15th)  
構成(文・写真:越智浩一11th)

JR「さいたま新都心」駅から歩いて十分。喧騒が行き交う国道17号。その裏通りに、ひっそりとたたずむデザインアパートがある。正面に立ち、入り口を見上げる。木漏れ日が体を優しく包み込み、時おり吹く初夏の風が心地良い。それはまるで、原から「もてなし」を受けているかのようだ。

光と風。自然を自らのデザインに調和させることを得意とする原は、現在、三名のスタッフと共に仕事をしている。それが原因ではないが、TV出演後に自然と人が集まってきたという。実は、その中の一人は原の妻でもある。しかも、結婚したのは三ヶ月前と実にめでたい。

仕事に結婚。週末には趣味のテニスと、順風満帆に見える彼の人生であるが、それは一朝一夕に出来上がったものではない。

——同窓生一万八千分の一。  
その現在進行形の物語を、私たちは垣間見る。



## PROFILE Masayuki Hara

原雅之 37歳（1期生） 4A 芸術系（美術）

昭和62年3月 埼玉県伊奈学園総合高等学校卒業

平成02年3月（専）ICSカレッジオブアーツ インテリアデザイン科卒業

平成02年4月（株）小泉産業にて特注照明器具デザイン業務に携わる。

平成05年4月（株）一建築設計事務所にて建築設計業務に携わる。

平成06年1月 2級建築士取得

平成07年4月（有）オープンスタジオアソシエイツにて建築・インテリアデザイン設計に携わる。

平成09年9月 雅クリエイト設立。住宅設計、店舗設計を手掛ける。

平成11年2月 1級建築士取得

平成12年5月【新しい住まいの設計 6月号】中村邸が掲載される。

その後、多数の雑誌に作品が掲載され、TVにも出演する。

HP：<http://www32.ocn.ne.jp/~miyavi/>



「自己中という言い過ぎかも知れないけど、自分に正直だったというのがあります——」

## 独立前夜。

伊奈学園に美術推薦で入学した原は、家具や道具などを扱うプロダクトデザインの道を歩むつもりではいたが、建築家になろうとは全く思っていなかったという。

「どちらかといえば運動ばかり。中学でバスケットをやっている、高校でもずっとバスケットをやっていました。美術とかこう、オタクみたいな感じがして。だから、一、二年では美術系の人とはほとんど関わりがなかった。でも受験前になって、放課後にデッサンや平面構成と一緒にやっているうちに、美術系の

独特で個人的な仲間に影響を受けました。自分にはない感性が新鮮だったんです」

高校を卒業してデザインの専門学校へ。その後、学習机で有名な小泉産業へ就職する。しかし、プロダクトデザインの道を志していた原が就いたのは、家具ではなく照明の設計だった。

## 「本当は家具がしたかった」

照明をして二年目——。

小さいモノから大きいモノまで。自らがデザインした照明器具が空間に取り付く。頭の中で思い描いたモノが形として残る仕事は楽しい。しかし、原にはある思いがあった。

「照明はインテリアの一要素。インテリアは建築の一要素。しかも、

その照明を誰がデザインしたのかは、誰も知らない。漠然とそんな思いがありました。何かこう、このまま終わっていいのか。もっと自分にはできる事があるんじゃないかと。それを突き詰めて考えてみた時、当時の僕は『僕自身が何かをやって、人に感動してもらいたい』という思いに至ったんです」

## 「人に感動を与えたい」

自らが得意だったモーグルスキーでプロを目指そうと、原は仕事を辞め、思いもよらない方向転換をする。二十四歳の時である。

「夏はニューージーランド、冬は白馬八方で猛練習。もうスキー三昧でした。



でも八方で練習している時、三歳くらいの子供が、僕の隣でコブ斜面を滑っていったことがありました。それを見た時に『こいつらには逆立ちしても勝てないな』と自分自身に限界を感じてしまっています。挫折ですね」

「そうした脱力感の中で将来に不安を感じながら、スキー場でアルバイトをしていた時に、この本と出会ったんです」

「アルバイトの休憩中、椅子に座ってこう、パラパラとめくる。新しいデザインや設計が紹介されているわけです。それを見て、ふ抜けている僕の中で『やっぱり俺にはデザインしかない』そんな気持ちが湧いてきました」

## 「建築で人に感動を与えていこう」

そして、原はもう一つの出会いを果たす。

「スキー場で働いていた仲間、大学在学中に司法試験に合格した奴がいました。しかも一つ年下。そんな彼に影響を受けました。一日九時間、毎日勉強していたそうです。自分が山を下りて必死に勉強出来たのは彼のおかげだと思います。『金なんて無いし独学だけど、絶対に一回で建築士試験を合格してやる』そう思って勉強しました」

## 独立して間もない頃に描いた、人生設計図

―独立した頃の自分から見て、今の自分をどう思いますか？

「僕が独立したての頃は、テレビ・雑誌に出るなんて思ってもみなかったです。建築設計事務所を始めて、仕事もなく借金しているような時になかなかそういう事は思えないじゃないですか。でも、その頃に自分でカレンダー風の人生設計図を書いたんです。そこに「いついっとうなる」と書いておくと、ちゃんとなるんですよ、それが。ちよつとずれるんですけどね。(笑)それに、だいぶ大きな目標を立てると、なかなかすぐ達成できない



ですけど、数年後とかには必ず達成するんです。面白いですよ」

「人生設計図を書いて、『自分はこうしたい、なりたい』と思ってる頭があると、何かを選択する時、そっちよりに選択されていく。それが一直線に行くのか、僕みたいにくらぶらしながらもそっちの方向に行くのか、という違いはありますけどね。でも僕の場合は、曲がったところで必ず何かを掴んで戻ってくる。世の中、『無駄なことはないんだな』というのは結構ありますよ」

### あの頃の夢 これからの夢

―TV出演のことは人生設計図に書いていたのですか？

「人生設計図にはTV出演なんて無かったです。ただ漠然と評価されたいという思いはありましたけど。TV出演や雑誌掲載は目標では無く、一つのステップです。誰もその為に仕事しているのでは無いでしょうから」

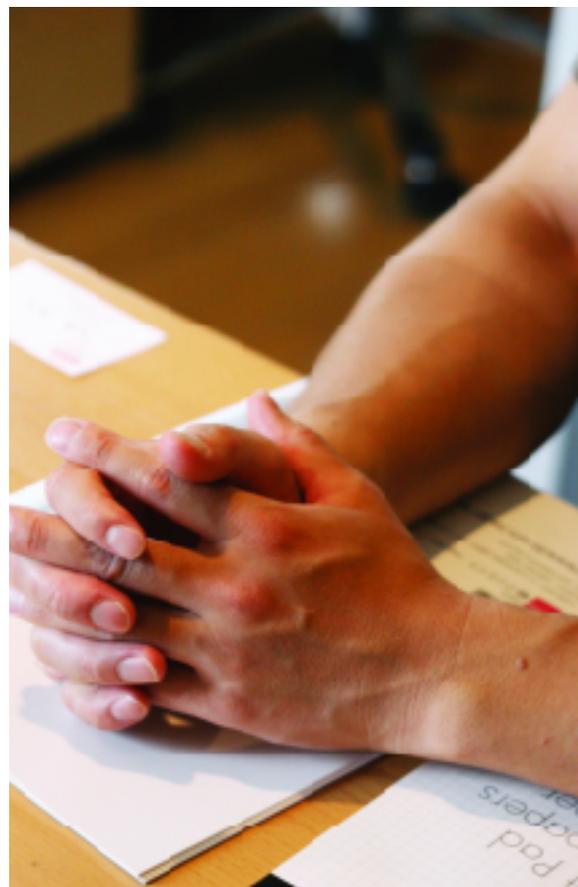
「(山を下りた)あの頃は、独立することが精いっぱいだったのかもしれない。雑誌に掲載され、TVに出演して、仕事が増えてくると欲が出て目標がどんどん大きくなっていきました。個人事務所を法人にして、社員を抱えたり、来年にはショールーム代わりにも使える自宅兼事務所を造ったり。これから

は、建築の賞をもらいたい。会社を大きくして誰もが知っている会社になりたい。今はそう思っています」

### 体から湧き出る『やりたい』という気持ちを

―一期生OBとしてメッセージをどうぞ。

「『やりたい』という気持ちを大切にしたいです。特に大学生や、卒業したばかりの若い人に対して。自分がやりたいと思ってることを色々な条件や、環境とかによって、しばませてほしくはないです。思ったらそれをやってみたほうがいい。その後で必ず結果が待っている。もちろん、それには成功だけでなく失敗という結果も待っている。でも、失敗してもそこには必ず何かが残るんです。僕は、スキー場に行つて挫折はしましたが、そこで出会って今でも付き合いのあ



る人がいますし、そのつながりが仕事に繋がったこともあります。それに、今の自分があるのも、本と出会い、人と出会い、建築の道に進もうと思ったから。結局、挫折したことで、くすぶっていた自分自身の迷いが吹っ切れたんです。やってみると必ず結果が出て、そのうえで必ず何かが起こる。だから自分の力を信じて体から湧き出る『やりたい』という気持ちを持つて、チャレンジして欲しいです」

―あの頃は、自分が納得できないことを覆い被せたりしないで、そのまま剥き出して行動してしまふところがあつて。まあ、それがいろんな評価、『こいつはダメだ』とか言われながらも、でも『自分はこうなんだ』と堂々と言っていました。その部分。僕は今も変わっていないと思うんです」

# あの頃からの帰り道



**F-inajin**

『蕎麦きり さいとう』

店主 齋藤 健司氏 (5期 2E 理数)

取材(文・撮影:加藤桂悟12th) 構成(文・写真:荻原正行12th) 監修(越智浩一11th)



あんみつ 380円



冷たいお茶がこの時期はうれしい



玄蕎麦は日本最北端の産地、北海道中川郡音威子府(おといねっぶ)村のものを使用



店主の齋藤氏

あの頃からの帰り道、「伊奈中央」に立ち寄る。十字路にあるその店は「蕎麦きりさいとう」。

暖簾をくぐり引き戸を開ける。

無垢の木柱に、薄赤い『珪藻土』の壁。上には丸い和紙の灯が燈り、少し奥には小粋な小物たち。

コシ。そばつゆに浸けてすすっているうちに夢中になる。ツルツルシコシコ。主人の声は聞こえなくなっていた。

食べ終わりの一服に、飲んだ次の日には必ずお通じが来るといふ、評判の濃い蕎麦湯をいただきながら話を聞く。店を継いだこと、屋号を改

る。ニューシャトルから見える風景。主人の言葉を思い出す。

「蕎麦屋は蕎麦。蕎麦がおいしくなんぼです。だから、一番大切なのは辛抱強く、毎日蕎麦を打つことです。考えてみてください。ただの麺です。売ってます。それを営業時間の大部分を割いて製麺作

落ち着いていて暖かい。挽きたて・打ちたて・茹でたて。

『三たて』で創られたその蕎麦は、細くて繊細で、黒い粒粒が透けて見える。『ひね』と呼ばれる今のそばはあまりおいしくないんです」そんな事を言っていたが、その香と

めたこと。朝五時半には市場に行つて活きのいい穴子を仕入れること。父、母、息子と三代食べた客に「お前の蕎麦が一番うまい」と言われたこと。その顔は、どこか誇らしかった。

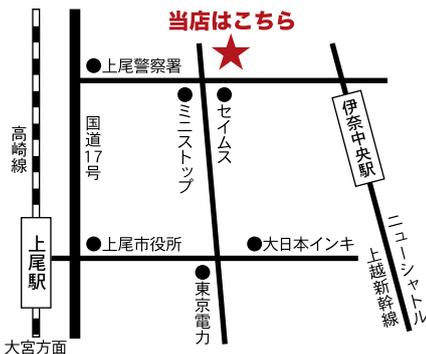
店を後にしてあの頃から帰

業（挽いて打つ）をしている。毎日毎日。それが日々積み重なって、ふと気づくと凄く価値のあるものができそうな気がするんです。そういうことを念頭において、頑張っています」

—— 九月は新蕎麦の季節だ。

## 蕎麦きり さいとう

☎ 048-722-2725  
 住 伊奈町小室9819-1  
 営 11:30～20:00 (P10台)  
 休 月曜  
 ニューシャトル「伊奈中央」駅から200m



# いなほ祭で逢いましよう

いなほ祭  
二十周年  
記念企画

## いなほ祭20周年記念イベントを開催します

来る9月3日・4日に第20回いなほ祭が開催されます。学園祭実行委員会OB会では、“20歳”を

迎えるいなほ祭を記念し、「いなほ祭20周年記念イベント」を企画しています。

そこからまた新しい交流が広がるかもしれませんよ。



イベントでは、過去のいなほ祭を振り返るとともに、伊奈学園卒業生の卒業後の活躍の様子を紹介する展示や冊子の配布なども予定しています。また、卒業生を対象とした休憩所（外国語棟3階学習センター）もしっかり準備しておきますので、もう何年も伊奈学園に行っていないという方も、いなほ祭に行ってもなかなか居場所がないという方も、ぜひ旧友とお誘いあわせの上、“里帰り”してみませんか？

来年度以降についても、いなほ祭の場をお借りして、私たち卒業生が里帰りして交流できるような企画を考えていきたいと思っています。部活動のOB会などもタイアップして、より魅力ある企画にしていきたいと思っていますので、活動中のOB会などで、いなほ祭の中で日頃の活動を発表したいといったご希望がありましたら、[inahasai@tarow.com](mailto:inahasai@tarow.com)までご一報いただくと幸いです。



10周年企画の『ペーパークレーン ウォールアート』



毎年盛り上がる、後夜祭での応援団のステージ

学園祭実行委員会OB会代表 三谷 智幸  
いなほ祭20周年記念プロジェクトリーダー 飯沼 祐次

# この目で確かめよう！伊奈学園トリビア

「無駄知識」ということはありませんが、創立から20年以上経った伊奈学園では、現役生には当たり前でも、卒業生の私たちとしてはびっくりしてしまうような変化も少なからずあるようです。そこで、「伊奈学園トリビア」を紹介いたしますので、ぜひ自らの目で確かめてみてください。

## ●伊奈ロードは、もうない。

昭和入学組向けですね。ちなみに県道をまたぐ歩道橋も「柿の木」ももうありません。かわりに県道沿いにはコンビニ（2005年7月8日ローソン伊奈学園前店OPEN）や飲食店が充実しています。

## ●伊奈学園には、附属中学がある。

これももう常識ですかね。今年で3学年がそろっています。

## ●2N、3Oという、クラスがある。

これはどうでしょう？ちなみに2Nの教室は外国語等の3階にあります。3Oの場所は説明しづらいので、どこにあるかは来てのお楽しみです。

## ●自動販売機で売っている飲み物は、19種類ある。

これはうらやましいですね！確か設置当時は牛乳とコーヒーマルしかなかったような…。

●2ハウスの女子トイレに「音姫」がついた。  
実験的に2ハウスだけに付いているそうです。お試しを！

●男子の短パンが、ハーフパンツに変わった。  
時代の変化でしょうか。ジャージのデザインも微妙に変化しています。

●点字ブロックがついた。  
どこについたかは来てのお楽しみです（学習室、トイレ、階段、昇降口などいたるところにあるらしいです）。

●伊奈学園周辺の道路は、雨水をトイレの水に再利用できるように舗装されている。

これは見て確かめられるものかどうかはわかりませんが…。

昔と変わらないところや、私たち卒業生が残した足跡を見つけるのも楽しいですが、それぞれが在籍した頃との違いを見つけてみるのも楽しいかもしれませんね。ぜひ、いなほ祭でお逢いしましょう！

# 卒業生の皆さんの近況を募集します

いなほ祭20周年記念イベントでは、『いなほ祭で逢いましょう』をキーワードに、伊奈学園卒業生の皆さんがより広く交流できることを願い、イベント会場に“ぞっちはどうだ？ こっちはこうさ掲示板”を設置します。事前にEメールでいただいた卒業生からの近況やメッセージ

を、いなほ祭当日のイベント会場に掲示するものです。クラスごとに掲出するので、掲出するお名前はクラスでしか分からないニックネーム等でもかまいません。

いなほ祭に来られる方も来られない方も、ぜひ近況をお寄せください。

## Eメールに記載していただく内容

- 1 卒業年度
- 2 クラス（1と2については、当時の学籍番号上4桁の記載でもかまいません）
- 3 氏名（こちらからご連絡する場合がありますので、正しくお伝えください）
- 4 連絡先住所
- 5 電話番号または連絡のつきやすいメールアドレス

6 掲出する際のお名前（ニックネーム等）

7 近況・メッセージ（スペースの都合上、100字程度を目安としてお書きください）

## 掲示板に掲出する内容

掲示板には、期・HR、お名前またはニックネーム、現在居住している市区町村、近況・メッセージを掲載します。

(例)

1期3D いなほちゃん（伊奈町在住）

卒業して数十年になりますが、いなほは元気に農作業にいそしんでいます！久しぶりにみんなで集まりたいですね。

※レイアウトは変更になる場合があります。

## Eメール送信先：inahosai@tarow.com

締め切りは9月2日(金)正午までとさせていただきます。

お寄せいただいたEメールの記載内容については、いなほ祭20周年記念イベントの掲示板への掲載以外の目的で使用されることはありません。

# Kotistの宮西希さんに インタビューしました



インタビュー会場にて。公民館の一室という悪(?)環境ではありましたが、この後実際にKOTOっちゃってくださいました。

いなほ祭20周年を記念して、伊奈学園6期生で、現在各地でのコンサート活動をはじめ、テレビ・ラジオでも活躍中の“Kotist”宮西希さんにインタビューを行いました。

伝統的な楽器である箏を使いながら、まるでジャズのような即興的で創造的な演奏をする宮西さんをテレビやラジオで目にした方も多いのではないのでしょうか？ 自分の中から溢れてくる音楽を演奏したい。たまたまそれを箏でやっているだけ。というように、私たちが持っている箏に対するイメージを大きく変える作品づくりを続ける姿には、まさに伊奈学園の個性の輝きを見ることができます。

また、インタビューの中では、伊奈学園でのすばらしい出会いが、宮西さんの音楽はもちろん、その後の人生にも大きな影響を与えたと話してくれました。インタビューの全貌は、いなほ祭当日に20周年記念イベントの会場で配布する「いなほ祭20周年記念誌(仮称)」に掲載する予定です。お楽しみに！

## PROFILE Nozomi Miyanishi

伝統楽器、箏の奏法と特色を活かしつつ、和音階と西洋音階との隔たりをなくして、新しい可能性を常に追求する演奏を続けているアーティスト。リクエストに応じてその場で即興演奏を行う(本人曰くKOTOっちゃう)ライブパフォーマンスも大きな話題となっている。

母の手ほどきをうけ箏を始め、3歳で初舞台をふむ。伊奈学園、東京芸術大学を卒業後、日本、中国、韓国の3カ国の伝統楽器奏者によって構成される楽団「オーケストラ・アジア」の正式メンバーとして海外公演等も行う。2002年秋にデビューアルバム「Steps to the Moon」をリリース。その後もオリジナルアルバムやJ-POPのカヴァーアルバムをリリースする他、ライブ活動やラジオのパーソナリティなど幅広い音楽活動を精力的に行っている。



アドレスはこちら

<http://inagakuen.on.arena.ne.jp/>

## 同窓会HPへアクセス

同窓会のウェブサイトにあります。携帯などでも一応の閲覧が出来ますので、ぜひ一度お越しください。

内容は、同窓会からの連絡、掲示板、住所等の登録／変更フォーム、卒業生のペ

ージなどへのリンクです。二十周年記念誌の配布もこちらで受け付けています。また、同窓会へのメール送信フォームを新たに設けました。同窓会へのご意見・質問など、どうぞお寄せください。

## 情報変更は同窓会HPで

同窓会では同窓生名簿の整備を進めています。個人情報保護の観点から冊子としての発行はしませんが、クラス会などに利用してもらえるように準備しています。

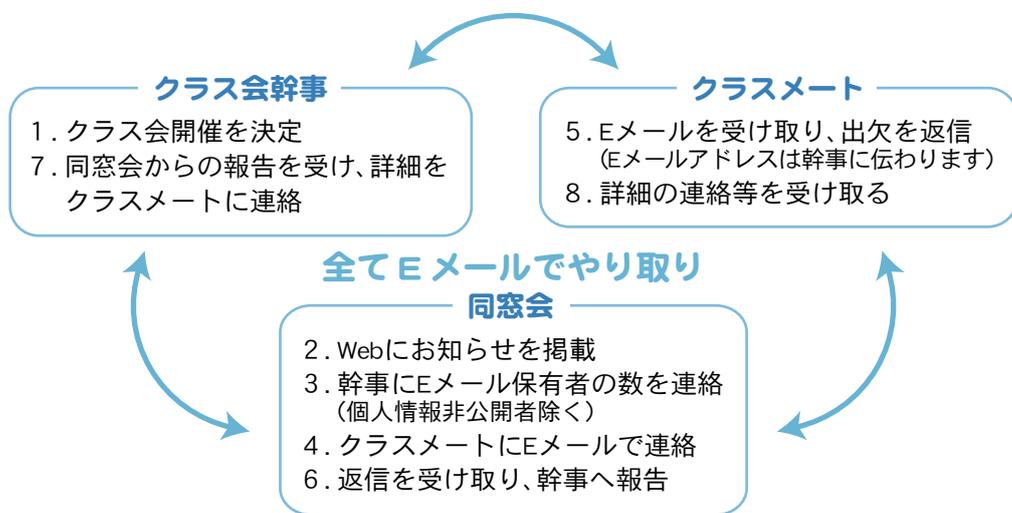
市町村合併や進学、転勤などにより住所が変わったり、結婚で姓が変わったなどの際には名簿情報の変更をお願いします。経費削減のため、通常は同窓会ウェブサイトからの登録／変更をお願いします。また、特に登録情報に変更のない方にも個人情報の扱いについてだけは改めて確認をお願いします。

## クラス会支援案について

同窓会名簿をクラス会に利用してもらえるように準備しています。個人情報の扱いについて意思表示されていない方も多く、現時点では名簿をそのままお渡しすることはできません。ですが、次のような方法で連

絡の仲介をすることにより、「クラス会支援」ができるのではないかと計画しています。実施時期等については同窓会ウェブにて随時お知らせします。本案についてご意見がありましたら、同窓会までお寄せください。

### クラス会支援図



お問い合わせは [ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp](mailto:ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp) まで

## 学校自己評価と学校評議員のおしらせ

教育活動等の評価について、教職員以外からの客観的・多面的な視点を取り入れる仕組みが全国各地の学校で作られています。こうした広い意見を含めた評価を学校自己評価といえます。この学校自己評価の取り組みを伊奈学園でも平成17年から始めるそうです。学校自己評価に協力して、意見を述べるのは保護者や学校評議員 (PTA会長、後援会会長、地域等代表者保護者など) とされます。学校評議員として同窓会からも1名の選出を依頼されました。卒業生の意見も取り入れたいのとことです。卒業生代表として、今期は同窓会副会長から選出する予定です。

今後、学校で行った教育活動などへの取り組みが学校評議員に報告されます。この報告は基本的にはウェブサイトで公開したい考えです。伊奈学園での教育はどうあるべきか、卒業生として述べるべき意見を皆さんから求めたいと思いますので、よろしくお願いします。



## 編集後記

お盆休みに猿ヶ京温泉に行ってきました。群馬の奥地にある穴場の温泉地です。アジサイに包まれた『泰寧寺』（十二神将は必見です）混浴風呂がある『法師温泉』（日本秘湯を守る宿に加盟しています）

手作り体験の『たくみの里』（手打ちそばに豆腐、こんにゃくまで作れる）

車で関越自動車道を通り、都心から3時間ほど。目に、肌に、心にいい。日頃の色々なア力を落とすには最適ですよー！（加藤）

この前、伊奈学時代の友人と飲んだときに気づいたのですが、出会ってからすでに10年経っちゃってました。月日が経つのは早いものです…。

そりゃ自分にも子供が出来るって話ですね。（荻原）